

令和7年度 成年後見人材育成研修 標準カリキュラム

使用テキスト ①『権利擁護と成年後見実践』（メインテキスト） ④『成年後見実務マニュアル』	②『後見六法』 ⑤参考資料集等	③『専門職後見人と身上監護』
--	--------------------	----------------

	課目	課目の目標	時間(分)	形態	使用テキスト					課題
					①	②	③	④	⑤	
1日目 (390分) 7/5 (土)	0 研修ガイダンス	1 研修の目的を確認する 2 研修概要、スケジュール、事前課題とその取り扱い等を理解する 3 受講における留意点及び修了要件を理解し、受講姿勢を明確にする	9:30-10:00 (30)	講義					○	
	1 成年後見制度の解説	1 成年後見制度が成立した背景及び制度の趣旨と理念を理解する。 2 法定後見制度と任意後見制度の概要を理解する。 3 成年後見制度の周辺にある制度を理解する。 4 弁護士や司法書士等の専門職との連携について理解する。	10:00-12:00 (120)	講義	○	○	○		○	●
	2 成年後見活動における判断能力のとらえ方	1 成年後見制度における診断書、鑑定書について理解する。 2 認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等を理解するために必要な医学的知識を修得する。	13:00-14:00 (60)	講義	○	○				
	3 社会福祉士と成年後見活動～権利擁護の視点から	1 社会福祉士の専門性を活かした権利擁護の視点を理解する。 2 権利擁護の諸制度や成年後見制度の課題と最新動向を理解する。	14:10-17:10 (180)	講義	○	○	○		○	
2日目 (360分) 7/19 (土)	4 財産法の基礎	成年後見制度活用のための財産法の基礎的知識を修得する。	9:30-11:30 (120)	講義	○	○				●
	5 財産管理のための知識	1 成年後見制度活用のための財産管理の基本的事項を理解する。 2 財産管理に必要な具体的方法に関する知識を修得する。	12:30-14:00 (90)	講義	○	○		○	○	
	6 後見事務の実際1	具体的事例を通して、財産管理の方法を理解する	14:10-15:10 (60)	報告 解説	○	○		○		
	7 家庭裁判所の実務の理解	1 家裁における後見担当部局の概要(裁判官、調査官、書記官それぞれの役割)を理解する。 2 家裁における家事審判手続きについて理解する。 3 不正防止への取り組み(監督人の選任、後見支援信託)について理解する。	15:20-16:50 (90)	講義	○	○			○	
3日目 (360分) 8/9 (土)	8 家族法の基礎	1 成年後見制度活用に必要な親族法の基礎知識を修得する。 2 成年後見制度活用に必要な相続法の基礎知識を修得する。	10:00-12:00 (120)	講義	○	○				●
	9 身上保護(身上監護)のための知識	1 身上保護(身上監護)とされる項目を修得する。 2 成年後見制度活用上の留意点に配慮できるようになる。 3 権利侵害に対抗できる手続きを理解する。	13:00-15:30 (150)	講義	○	○	○	○	○	
	10 後見事務の実際2	具体的な活動事例を通して身上保護(身上監護)の方法を理解する	15:40-17:10 (90)	報告 解説	○	○	○	○	○	
4日目 (300分) 8/23 (土)	11 演習1 ニーズの把握と対応	1 権利擁護ニーズについて理解する。 2 権利擁護に関わる制度の特徴と活用方法を理解する。	10:00-12:00 (120)	演習	○	○		○		●
	12 演習2 ネットワーク活用による権利擁護(それぞれの立場での権利擁護実践)	1 制度の限界を理解する 2 権利擁護について社会福祉士がとるべき態度について理解する。	13:00-15:00 (120)	演習	○	○		○		●
	13 今後の活動について	1 研修を振り返り、成年後見人に必要な知識・技術を共有する。 2 成年後見制度を活用するために必要な 知識の理解度を確認するため、修了試験を行う。	15:10-16:10 (60)	講義	○	○			○	●

※敬称は略させて頂いております。